

第74回国民体育大会 天皇杯10位 皇后杯14位

◎第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体2019）

期日：2019（令和元）年10月4日（金）～8日（火）

場所：茨城県・笠松運動公園陸上競技場

神奈川県選手団 天皇杯 78.5点 第10位 皇后杯 44点 第14位

順位	男女総合（天皇杯）		順位	女子総合（皇后杯）	
第1位	福岡	118	第1位	兵庫	75
第2位	兵庫	117	第2位	大阪	72
第3位	大阪	107	第3位	静岡	67
第4位	静岡	101	第4位	東京	61
第6位	京都		第5位	埼玉	59
第7位	千葉	98.5	第6位	千葉	57
第8位	埼玉	88	第7位	京都	55
	東京	87	第8位	北海道	51
	愛知		福岡		



○神奈川県選手団 入賞者一覧表

種目	選手名	記録	順位
成年男子 110mH	矢澤 航	13.65 (-0.2)	2位
成年男子 400mH	松下 祐樹	50.77	5位
成年男子 走高跳	高張 広海	2m13	5位
少年男子A 400m	平井 聖人	47.89	4位
少年男子A 5000m	児玉 真輝	14.03.44	5位
少年男子A 400mH	新井 公貴	52.73	6位
少年男子A 棒高跳	中野 隼斗	4m95	3位
少年男子共通 走高跳	武田 翔太	2m00	7位
成年女子 400mH	小山 佳奈	59.18	5位
成年女子 走高跳	青山 夏実	1m72	4位
成年女子 やり投	山内 愛美	54m85	5位
少年女子A 100m	三村 香菜実	12.05 (-1.5)	4位
少年女子A 400m	川崎 夏実	55.13	6位
少年女子A 3000m	信 櫻	9.13.85	5位
少年女子A 走幅跳	藤山 有希	5m95 (+0.5)	3位
少年女子B 100mYH	安井 麻里花	14.12 (+1.6)	8位
少年女子共通 400mH	有賀 知春	1.00.64	7位

◎入賞者からコメントをいただきました

平井 聖人（神奈川県立舞岡高等学校）

私は、南関東大会直前で怪我をしてしまいインターハイに出場することが出来ず、全国という舞台上で戦うことが出来ませんでした。そのリベンジという形で国体に臨みました。

私には自信がなく、ネガティブに考える癖がありました。今大会の入賞を通して、自分を前向きに捉えることが出来るようになったと思います。全国初入賞ということもあり、この大会はとても自分を前に進めてくれた良い大会になりました。

児玉 真輝（鎌倉学園高等学校）

今回は初めて国体を選んで頂き、とても緊張していましたがたくさんの応援やサポートのおかげで目標としていた入賞を果たすことができました。もう一つの目標であった神奈川県の高校生初の13分台というのは達成できませんでしたが個人として初めて全国大会で入賞することができ、とても自信になりました。

中野 隼斗（神奈川県立金井高等学校）

私は神奈川県代表選手として少年A男子棒高跳に出場させていただきました。高校入学してから国体に出場して神奈川県に貢献するという事が目標だったので、選ばれた時はとても嬉しく光栄なことでした。

大会一週間前に捻挫してしまい練習もできず不安で迎えた大会は、いつも以上に緊張していました。コーチやトレーナーさん、仲間の応援があって乗り切り3位入賞でき、とても意味のある大会になりました。改めて沢山の人の支えていただいていると実感する大会でした。この経験は今後、必ず生きると思うので陸上していくにあたっての引き出しとして頑張っていきたいと思えます。

武田 翔太（慶應高等学校）

8月の初めに沖縄で行われた全国大会で僕はNMという結果に終わり、大舞台で実力を出し切れない自分の弱さを痛感しました。しかし国体では神奈川県選手団の方々のサポートのおかげで7位に入賞することが出来ました。普段とは違う環境の中での試合はとても楽しく、チームとして大会に臨むことの強さ、サポートの大切さを思い知りました。これから先、この経験を活かして更に高いレベルを目指していきたいと思えます。

小山 佳奈（早稲田大学）

まず、今年も神奈川県選手団として国体に出場できたことを大変うれしく誇りに思います。今大会は59秒18で5位に入賞する事が出来ました。右足首を痛めていた中でありましたが神奈川のサポートが厚くとても力になりました。コンディションが良かったら優勝を狙える試合であったので悔しかったですがこの悔しさを来年に活かしていきます。
来年にはオリンピックを控えているのでこの冬季をしっかりと積んで悔いの残らない2020年にしたいと思っています。沢山の応援、サポート、本当にありがとうございました。

青山 夏実（日本女子体育大学）

昨年に引き続き出場させていただき、4位入賞することができました。今年度はどの大会でも上位入賞を狙えるほどコンスタントに跳べていたので、惜しくも表彰台に上がることのできない試合が多く、悔しい面もありましたが、その分自分の伸び代も感じられました。来年度は社会人としてのシーズンになりますが、もう一つ上のレベルで戦えるよう冬季練習をしっかりと積んでいきます。

三村香菜実（東海大学付属相模高等学校）

先日行われた茨城国体少年女子A100mに出場させて頂きました。4位という悔しい結果に終わってしまいましたが、スタッフの先生方をはじめ、選手の皆さんの応援やサポートのお陰で自分らしく楽しんで競技をすることができました。国体での経験を今後の競技人生に活かしたいと思います。

川崎 夏実（明德学園相洋高等学校）

今回、インターハイと国体で400mに出場させていただきました。結果は入賞はしたもののどちらも悔しく、また不甲斐ない結果で終わってしまいました。本調子に戻らず迎えた大会で、不安と緊張とも戦うことになり、色々な方が応援して下さい、支えて下さってる事も感じられましたが、恩返しというものにはならず勝負の世界の厳しさを身をもって体感することになりました。それでも、走れたことに喜びと有り難さも同時に感じられました。これからもまた練習に励み、自分の可能性をもっと追いかけていきたいと思っています。

信櫻 空（川崎市立橋高等学校）

全国高校総体では、目標にしていた2種目入賞を果たすことができず、悔しい思いをしました。その結果を生かし、国民体育大会では順位も、レース内容も納得のいく結果で終えることができました。今年のトラックシーズンでは、沢山の人の支えられていることを本当に色々な場面で実感することができました。
感謝の気持ちを常に持ち、これからも日々努力していきます。

安井麻里花（明德学園相洋高等学校）

私が今年行われた国民体育大会で8位に入賞する事が出来たのは沢山の方の支えがあったからだと思っています。私はこの大会に初めて参加させて頂いたのですが、県の先生方、選手、大会役員の方々のお陰で、とても良い環境の中競技に臨む事が出来ました。しかし今回の結果は自分では満足出来る様なものではないので、その事に一喜一憂せずこの経験を活かして行ける様これからの練習に励んで行きたいと思っています。有難う御座いました。

藤山 有希（東海大学付属相模高等学校）

令和元年10月5日に少年女子A走幅跳に出場し5m95で3位、6日には女子共通三段跳に出場し予選敗退という結果だった。先月行われたインターハイで走幅跳は3位だったが、自分が勝てない相手ではないと確信したので、今回の国体では優勝を目指し競技に挑んだ。
実際、国体での試合は1本目で安定の95cmを跳び決勝進出は間違いないと思い、次の2本目で勝負をかけ、着地した瞬間に6mは確実に跳んだと思ったがファールになってしまい、そこだけが悔やまれる跳躍だった。最終跳躍では助走も踏切も良く飛距離も出ていたが、着地で失敗してしまった。改めて、走幅跳というものは全ての条件が揃わないと最高なジャンプに繋がらないので、今後の練習ではきめ細かく自分の跳躍を見直し練習をして行かなければいけないと思った。高校生での最後の国体に自分を信じて選んで頂き、チャンスを与えて下さった神奈川県陸上競技協会には感謝しています。

有賀 知春（川崎市立橋高等学校）

国民体育大会茨城国体に7位入賞させて頂きました。正直今シーズンは怪我をしている中で大会に繰り返し出場していたため、今後の競技人生を考えて今大会は出場をするべきか悩んでいました。しかし、昨年国体に出場させて頂いた時の事を思い出し、この大会には出てなんとしてでも決勝に行き、リベンジをしたいと思いました。そんな私のわがままで走らせて頂き、感謝の気持ちと共に陸上の楽しさ悔しさを味わうことができました。
「神奈川県ハードラーのプライド」と「いばラッキー」を胸にまた夢へ翔んでいきたいと思っています。

◎令和元年度・2年度 常任理事会の体制について

会長	橘川 眞佐志	常任理事	山崎 正敏（記録部長）
副会長	皆川 敏明	//	加藤 智明（強化普及委員長）
専務理事	吉田 秀志	//	小出 敏之（普及部長）
常務理事	金澤 健敏（高体連）	//	松尾 正弘（財務委員長）
常任理事	生野 俊道（総務委員長）	//	稲垣 大介（競技場管理委員長）
//	岡本 克己（競技運営委員長）	//	村上 孝文（中体連）
//	中野 賢一（審判部長）		

〜トピックス〜

◎秩父宮賜杯第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

期日：2019年8月4日～8月8日

場所：沖縄県 タビック県総ひやごんスタジアム（沖縄県総合運動公園 陸上競技場）

○男子800m 1位 クレイアーロン・竜波（相洋高校） 1'50"24

私は全国高等学校総合体育大会の800mで優勝し、2連覇をする事ができました。目標にしていた優勝が現実になって、嬉しさもあり新たな自信ができました。また、この結果が出せたのは自分一人ではなく多くの人の支えがあったからです。感謝の思いを忘れずにこれからも満足せず高いレベルを目指して頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

○男子1500m 3位 山田 俊輝（川崎市立橋高校） 3'46"41

私はこの3年間、「インターハイ1500m」優勝を目標に日々努力してきました。1年目は県総体予選敗退、2年目はインターハイ予選敗退、3年目の今年、インターハイ3位に入賞することが出来ました。最大の目標は達成できませんでしたが、それに近い結果を残すことができ感謝の気持ちでいっぱいです。来年は大学生となります。更なるステージでも常に上を目指した日々精進していきます。

○男子5000mW 6位 吉川 絢斗（中大附属横浜高校） 22'29"31

昨年インターハイでは予選落ちで、本当に悔しい思いをしました。それから練習量・質、食事など健康的な生活にもこだわり、以前の何倍も陸上競技に気持ちを入れ込みました。練習中はつらい場面が多くあり妥協してしまいそうな時もありましたが、支えてくださった多くの方々に入賞して恩返しをしたいという強い気持ちがあり、乗り越えられたと思います。たくさんの方々関わって競技ができるので、感謝や謙虚な気持ちを忘れずこれからも頑張っていきたいです。

○男子4×400mR 3位 相洋高校 3'16"07

昨年の全国高等学校総合体育大会では7位だった為、今年は優勝を目指して練習してきました。しかし、チーム全員が、勝ちたい気持ちを持ち続けられるかという点に課題がありました。そのため、何度も皆で話し合い、全員が同じ気持ちで今年のインターハイに臨めるよう意識しました。結果は3位で正直悔しい気持ちはありますが、この結果に誇りをもっています。この結果を出せたのは、先生、保護者、先輩方の支えのおかげです。

○女子400m 1位 高島 咲季（相洋高校） 53"44

○女子200m 2位 高島 咲季（相洋高校） 23"76

今回の全国高等学校総合体育大会において400m優勝、200m準優勝という結果を残すことが出来ました。400mでは2連覇というプレッシャーがかかる中での試合でしたが、周りの方のサポート、応援のお陰で私らしい走りをして勝てたと思います。200mではインターハイという大きな大会で自己ベストを更新でき、自信に繋がりました。来年も上を目指して強くなりたいと思います。有難うございました。

○女子400m 8位 入江 明歩（県立湘南高校） 56"58

昨年は3位に入賞してからまたこの舞台に戻ってくるまでは、怪我や思い通りにいかないことばかりでした。逃げ出したくなることもありましたが、しかしそんなとき、やっぱり諦めたくない、もう一度みんなと走りたい、そう思わせてくれた仲間のおかげがありました。顧問の先生、家族、応援して下さる方々の支えがありました。自分一人の力では、ここまで辿り着くことは絶対にできなかったと思います。本当に、感謝の気持ちでいっぱいです。結果として決勝では最下位となってしまいましたが、私はこの8位という順位を誇りに思います。

○女子5000mW 7位 矢内 萌木（県立大和高校） 23'57"93

昨年と同じ7位という結果がとても悔しく自分の実力不足に苛立ち、モヤモヤとした気持ちのまま最後の総体が終わってしまいました。しかし、最後まで頑張ることができたのは指導して下さった先生方、一緒に練習できる仲間という恵まれた環境があったからだと思います。私が競技を続けられる環境を作ってくれたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

○女子4×100mR 1位 相洋高校 45"45

今年の全国高等学校総合体育大会で女子はリレー種目二冠という目標をたてて挑みました。4×100mリレーは初日から3日目まで行われ、この優勝という結果は最終日のマイルに勢いをつけることができ、また自分たちの目標のリレー種目二冠の道へと近づけることができました。今後、また新しい歴史を作れるよう一からスタートしていきたいです。

○女子4×400mR 1位 相洋高校 3'43"11

今回の全国高等学校総合体育大会では女子4×400mリレーで優勝することが出来ました。自身の学校では初となる2連覇をかけて1年間、優勝することだけを目指して練習に励んできました。決勝の2日前に行われた4×100mリレーの良い流れにのり、チーム一丸となってその目標を達成出来たと思います。今後も周りの方々の支えに恩返し出来るよう、常に成長し続け、リレーの伝統に磨きをかけ、継承していきたいです。

◎第53回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

期日：2019年8月10日（土）・11日（日）

場所：駒沢オリンピック公園 陸上競技場

○岩淵 充貴（県立伊勢原高校） 男子800m 1位 1'55"87 男子1500m 1位 4'08"80

昨年度800mで優勝することができましたが、1500mは4位と課題が残っていました。1年間この定通大会2種目制覇を目標に練習をしてきて、特に800mは記録も狙っていましたが、試合前はちゃんと練習してきたことが出せるのか不安でしたが、800m、1500m共に優勝でき、800mは大会新記録を出せて安心しました。練習環境を整えて、練習を見てくれた先生や、応援してくれた両親に感謝をしています。

○ガンドル スウェタ (県立追浜高校) 3000m 1位 12'24"67

今回私は全国大会の3000mで優勝することができました。初日の800mで予選落ちしたことがとても悔しくて、3000mは何としても勝ちたかったので、優勝できてとても嬉しかったです。
私が陸上競技を始めたのは今年の4月からで、熱心で優しい顧問の先生の誘いがきっかけでした。一人では辛い練習でも、陸上部の仲間と一緒に練習することがとても楽しく、乗り越えることができました。
来年は2種目(800m・3000m)で優勝できるように頑張りたいと思います。

◎令和元年度 第46回全日本中学校陸上競技大会

期日：令和元年8月21日～24日

場所：大阪府 ヤンマースタジアム長居

○男子200m 8位 山口 竜 (川崎市立宮内中学) 22"42

僕は、色々な方に支えられたからこそ全国大会で入賞できたと思っています。全国大会当日も、一緒に全中まで来たりメンバーがサポートに回ってくれました。本当に感謝しています。でも、200mの決勝では8位になってしまいました。予選ではベストがでしたが、足を少し痛めてしまったので本当に悔しい結果となってしまいました。この悔しさをバネに、高校でも頑張っていきます。

○男子砲丸投 1位 山田 暉斗 (横浜市立十日市場中学) 15m52 (県中学記録)

僕は中学2年生のときに、顧問の福田先生のアドバイスもあって砲丸投に専念することにしました。砲丸投についての専門的な知識はありませんでしたが、何度も基礎練習を繰り返すことで砲丸投の面白さをつかんでいきました。怪我に苦しみ、つらい時期もありましたが、先生や部活動の仲間、家族の支えのおかげで全国大会で優勝することができました。この感謝の気持ちを忘れず、これからも記録も自分自身も高めていきたいと思っています。

○男子四種競技 6位 宮内 夏葵 (横浜市立小田中学) 2693点

僕にとって全国大会入賞とは、自分が人間として成長する上で大きな経験となりました。全国大会に向けて練習や試合を積み重ねる中で「人は一人では何もできないんだ」ということを分かっていたつもりではありませんが、よりそのことを実感しました。試合を行う上で多くの方から支えがあったからこそ今の自分があるんだということを思いました。今回の全国大会入賞というのは自分の中でとても大きなものであり、素晴らしい経験になりました。

○女子走高跳 6位 後藤 未来 (横浜市立戸塚中学) 1m63

私は、全中入賞を通して多くの貴重な経験をすることができました。大会前や記録が伸び悩んだ時に、顧問の先生、チームメイト、家族の支えで頑張ることができました。その期待に応えるために努力し、全中での優勝を目指しましたが、悔しい結果となってしまいました。これからも支えてくださった方への感謝や、努力することの大切さを忘れずに自らの成長につなげたいと思います。

○女子4×100mR 6位 横浜市立港南中学 48"33 (県中学記録)

「夢を力に！いくぞ！港南！」
8月21日から24日に大阪で行われた全国大会に私たち港南中学校は、神奈川県代表として出場しました。レース当日はとにかく楽しもうという気持ちで挑み、緊張しすぎずに全てのレースで自分たちのベストを尽くすことができ、決勝では神奈川県中学校記録の48秒33で6位になることができました。
私たちは、仲間やライバル、先生、そして家族がいてくれたから、より高い目標に向かって走る続けることができました。これからも感謝の気持ちを忘れず、今まで支えてくださった方々に恩返しできるように、頑張っていきたいと思っています。
港南中学校陸上競技部一同

◎第35回東日本女子駅伝競走大会

11月10日(日) 福島県 信夫ヶ丘競技場をスタート・フィニッシュとする42.195kmで実施され神奈川県チームは2°20'23で4位に入賞しました。ご声援ありがとうございました。(優勝は千葉県チームで2°18'56)

◎第19回総務委員会女性部講習会ならびに総会を開催

11月30日(土) 女性部総会、講演会が日産スタジアム会議室にて開催され、講演は、神奈川県高体連強化委員長(県立横浜緑園高校)樋口 利夫氏による「ジュニア期の混成競技の指導法について(各種目の指導ポイントとトレーニング)」が行われました。

◎都市陸協だより(第9回：平塚市陸上競技協会)

平塚市陸上競技協会の主な事業は、平塚選手権・ナイター陸上記録会・平塚市中学校陸上競技大会・ロードレース大会・小学生駅伝・市内一周駅伝・少年少女マラソン大会など16の競技会を主催・主管し審判を行っています。

陸協独自の取り組みとしては、平塚市の陸上競技への底辺の拡大と人材発掘の為、毎月第3金曜日の午後6時から「月例記録会」を行っています。種目は100m,3000m,5000mです。また、毎年市内小学校の4・5・6年生の希望者を対象として「ジュニア陸上教室」を年11回開催しています。毎年参加者は100名を超えています。

夏の7月と8月に開催している「ナイター陸上記録会」では3年程前から参加者が1000名を超え、令和元年7月に行った一般男子100m競走では、10秒台で走る選手が33名いました。(8位の選手は10秒60)平塚競技場は午後になると西風が吹くので、風向きを考慮してバックストレートを使用したことが功を奏したのかもかもしれません。一般男女の100m競走の組数は30組を超えます。大勢の選手が参加してくれるのは私たちにとって大変うれしいことです。またやりがいがあります。

平塚市陸上競技協会 小泉 一二三